

## NST 稼働とそれに伴う在院日数の変化

仲田智之<sup>1)2)</sup>、亀井 滋<sup>1)2)</sup>、五嶋博道<sup>2)3)</sup>、福村早代子<sup>2)4)</sup>、川口 恵<sup>2)4)</sup>、大川 光<sup>2)5)</sup>、大川貴正<sup>2)5)</sup>、矢賀進二<sup>2)5)</sup>、東口高志<sup>6)</sup>

尾鷲総合病院 NST & Clinical Path Complex(NCC)<sup>1)</sup>、内科<sup>2)</sup>、外科<sup>3)</sup>、看護部<sup>4)</sup>、リハビリテーション部<sup>5)</sup>、藤田保健衛生大学医学部 外科学・緩和ケア講座 教授（尾鷲総合病院 NCC Adviser<sup>6)</sup>）

当院は 2000 年 7 月より NST 稼働が開始され、その後、各患者の栄養状態の管理や QOL の上昇に積極的に介入してきた。その結果として、NST 稼働にともない様々な影響が病院全体に現れてきている。経済的な面や、地域医療との関わり、スタッフの負担等が挙げられる。今回は在院日数の変化を例にあげて NST 稼働により何が変わったか、なぜ在院日数に変化が現れたのか、等を検討する。